

## だれもがスキルアップできる場として 狭山市駅西口駅前再開発へふくらむ期待

市長 それでは、今、高橋理事長から話題が出ましたが、狭山市民にとって30年来の懸案事項である狭山市駅西口再開発事業について、お話をしたいと思います。

昨年の7月31日、狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業の事業計画が国土交通大臣からの認可を受け、その計画に基づいた事業がいよいよ始まるつとしていきます。その中には、中央公民館をはじめ、(仮称)生涯学習情報センターや、(仮称)総合子育て支援センター、(仮称)産業センターなどの機能を持つ公益施設も計画しています。気軽に足を運べる駅前が、出会い・学び・交流の場として、市民や地域だけでなく、企業などの活動も幅広く支援し、そこから生まれる活力を

駅前から広げていける。そんな施設を目指したいと思っています。それでは皆さん、市内の大学として、これらの事業に期待されることなどをお聞かせいただけますか。高橋 とても大きな事業だと認識しており、私もどこまでできることは、全力で力をお貸ししたいと思っていますし、またとない変化のとき、そのように感じています。公益施設の拡充が予定されていると伺っているので、大学としてどのような関わりができるかを考えたいですね。情報提供や講師の派遣なども含めた市とのコラボレーションはもちろんです。大企業や中・小企業の方たちとの関わりも持てたらと思います。地域の活性化、生涯学習や商工業などの活性化など、どのように縁を築きながら、

さらにそれを広げていくか。地に足を付けて地道に相互交流できるよう、関わっていききたいと考えます。ところで、西武文理大学では、すでに西口再開発をテーマにした講座を行っているようです。

佐藤 はい。私どもの大学

では、まちづくり市民公開講座のテーマとして2年前から西口再開発事業を取り上げてきました。今年度は西武鉄道(株)からも協賛を受け、すでに

昨年の11月と12月、2回

開催したところです。大学が

どのようにこの再開発事業と関わることができるか。やはりそれを中心に考えています。例えば、単位の互換取得ができるような大学間の連携、つまりコンソーシアムのに考えれば、大学が散在していることが一番問題です。再開発事業が行われれば、交通の結節点にもなり得るかと思えますし、市内を中心に考えれば、一つの講座を3

大学が連携してできる。共通の公開講座、駅前教室を利用した単位の取得など共通の利便性は上がるわけです。産業関連施設も予定されているならば、地元企業と学生の接点にもなります。就職活動を支援するような機能が持てれば、学生の地元企業への就職が増えるかもしれません。そんな役割を担う施設としても期待できますね。市長 なるほど。学生にとっても、

さまざまな有効利用が考えられる、ということですね。では、大学の最寄り駅は稲荷山公園駅と、少し離れています。清水理事長はいかがでしょう。

清水 はい。今は、高校を卒業して社会に出ている人がとても多いのが現状です。その社会に出た人たちが、スキルアップするために学べる場。そんな役割も果たせるのではないのでしょうか。今や、大学は4年間で卒業しなくてもよくなり、8年間という卒業制限もなくなり、8年間という卒業制限もなくなり、単位を重ねれば、社会に出て学位を取得することができ、アメリカでは、ハイスクールを卒業して社会に出た人が、仕事をしながらスキルアップをしています。そんな機会や場が必要だと私は考えています。例えば、東





狭山市駅西口整備の完成イメージ  
市の「顔」として大きな期待が寄せられます

力がいただきたいと思っています。市長 まさに、時代の変化を感じますね。市もできる限り、同じ方向を目指していききたいと思っています。駅前という利便性の高い場所が、生涯学習・スキルアップのための機能を持てば、狭山市民がますます豊かになるといえることです。自ら学び教養を高める「…何よりこれが生涯学習の基本です。その二」ズに因るために、大学と行政が協力し合いながら施策を展開で

きたら、素晴らしいと思います。清水 そうですね。現在の学校教育法の中には、大学の単位の累積制度が盛り込まれていません。これは少し先のお話になると思いますが、その単位取得制度がしっかりとした位置づけになれば、生涯学習の中で、大学の単位や学位を取得できるようにするのが、その機会が、市の顔となる駅前提供できれば、そして狭山市の駅前がそんな場になれば、こんなに素晴らしいことはありません。佐藤 なるほど。とても将来を見据えたお考えだと思います。市長 私は、地域に根ざした伝統や学びを大切にするために、その拠点として、地区センターを立ち上げました。そしてこの先、狭山中核となるのが、狭山市駅西口駅前だと思っています。市の魅力を大いにアピールできる場所です。3大学で約3千700名の学生がいると聞きますから、駅を中心に集まってもらえば、賑わいのあるまちになることは間違いありません。また、西武線という交通網を考えると、狭山市民はもちろん、他市からも足を運んでもらうことが十分可能です。そう考えると、沿線の中でも生涯学習機能の充実した特色ある駅前にしていききたいと、そのように考えます。

高橋 私たち3大学が、ぜひお力添えしていきたいと思っています。市長 そして、今年2007年、企業戦士が地域へ戻ってくる年でもあります。今や「定年退職」家庭への時代ではありません。駅前が、団塊の世代と学生が融合できる場、ふれあう場となり、団塊の世代の活力を維持していける…そんな機能も持たせたいと考えます。製造品出荷額県下第一位の工業都市として、市民皆さんの期待に沿えるような、将来に向けて夢を持てるような駅前になるよう、全力を尽くしたいと思っています。清水 まさに狭山市の「顔」となる駅前ということですね。市長 そのとおりです。福祉教育、産業、各分野の重要な機能を持たせるのはもちろん、だれもが自分の立場で、花を咲かせる「ための学びの場」：駅前にこそ、それらの「花」をたくさん咲かせられるよう、この事業を推進したいと思っています。いよいよ西口再開発をはじめとする事業が5年後の完成に向けて大きな一歩を踏み出します。今後とも3大学の皆さんには、さまざまな分野でご協力をお願いしたいと思います。本日はお忙しいところ、大変ありがとうございました。

問合せ 広報課へ内線7162